

今日のテーマ 「子ども理解の方法」 「夏休みにしておきたいこと」

1. 学級づくりは子ども理解に始まり、子ども理解に終わる。
授業づくりは子ども理解に始まり、子ども理解に終わる。
→つまり教師の仕事とは、子ども理解に始まり、子ども理解に終わるのである。
2. 子ども理解は、大変むずかしい。 だからこそ、さまざまな角度から見るのです。
 - ①定点観察から・・・校門のあいさつ、係の立候補、遊び友達、友達の順列
 - ②客観的なデータから・・・テストの点数、忘れ物の数、発言数、心理テスト
 - ③自分の主観的な見方から・・・自分からみた子どもの様子の記録の変化
 - ④家庭訪問から・・・親の養育姿勢、家庭の環境、知らされていないこと
 - ⑤遊びの中から・・・遊びに子どもの本音が一番出やすい
 - ⑥日記の中から・・・書くことによって振り返る 子どもの本音が出れば・・・
3. 先生はわかったつもりになっていることが多い。 そんなにわかるはずがない。
知ろうとしなければ見えないもの 「教育は足でかせぐ」「教育は今日行く」
 - ①まずは近づいてみる、まずは行ってみる 来なければ自分が行くしかない
 - ②子どもが寝ころんでいたら、自分も寝てみる。 一緒の高さで一緒の方向をみる。
 - ③たとえわからなくても、寄り添うことはできる
4. 子ども理解での留意点 子どもは日々かわっていくことを忘れないこと。
 - ・一度万引きすると、一生悪い子なのか？ いい時も悪い時もあるもの。
 - ・いい子に対して「君がこんなことをするとは思わなかった」と叱るのは酷なこと
 - ・誰もがしんどい時や休憩したい時はあるもの。 少しでもいいことは・・・人間らしい→子どもを見て「そうそう」より「えっこんな所もあったのか」という発見を大事にする
5. 記録ノートは、子ども理解の一番大切なもの。
 - ・こまめに記録する習慣をつける。それは子どもの成長であり、教師自身の成長でもある
6. 夏休みにしておきたいこと
 - ①クラスの子には、暑中見舞いのハガキを書いてやりましょう。
 - ②一番しんどい子の家には、休み中に一度は家庭訪問をしてやりましょう。
 - ③休み中に一回ぐらいは、自分でお金を出して興味のある研修に行きましょう。
 - ④先生もしっかり遊んでリフレッシュ！ 先生も楽しむことが大事です。いろいろな楽しい体験をして「あー楽しかったなあ、夏休み」と言えるように・・・
(番外編) 職員旅行の復活を・・・ 夜通し、子どものことを話す熱気

※8月19日(土)元気が一番塾「夏季セミナー」 県民会館 10:00~17:00
ゲスト講師 曲里由喜子、大路 亨 参加費 3000円 要申込み